

1 品種特性を発揮する「青天の霹靂」及び「はれわたり」の高品質・安定生産 ～消費者から信頼される米づくりの支援～

【概要】

- 西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを核に、「青天の霹靂」は良食味・安定生産、「はれわたり」は品種特性の普及について、生産指導に取り組んだ。

【背景・課題】

- 「青天の霹靂」は、栽培のポイントが浸透しつつあるが、出荷基準を達成できなかった作付者や新規作付者に対して重点指導により、品質の底上げを図る必要がある。
- 令和5年産から本格作付となる新品種「はれわたり」は、作付者に対して栽培の要点を指導し、スムーズな普及拡大につなげる必要がある。

【普及指導活動の内容】

- 西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム（以下PT）では、指導拠点ほの設置、夏季現地巡回、現地講習会等の開催により関係機関や生産者と情報共有を図った。
- 「青天の霹靂」新規作付者及び前年産の出荷基準未達成者等に対し、適切な肥培管理について個別指導を行った。また、「青天ナビ」を活用し、適期追肥・適期刈取を指導した。
- 「はれわたり」指導拠点ほ担当農家に対して、品種特性に応じた栽培管理を指導した。また、指導拠点ほを活用した研修会で、生産者に対して品種特性を周知した。

【成果】

- 「青天の霹靂」新規作付者の出荷基準達成率は100%で、目標の90%を上回った。また、前年出荷基準未達者20名のうち、合格者は19名で全員合格とはならなかった。
- 「はれわたり」指導拠点ほ8地点の高品質・安定生産達成率（一等米、かつ単収600kg/10a）は、高温の影響により品質未達が8地点、単収未達が2件で、目標を大きく下回った。

【対象者】

- 「青天の霹靂」新規作付者（9名）及び前年産出荷基準未達者（21名）
- 管内「はれわたり」作付者（387名）



指導拠点ほでの個別指導（6/20）



PTによる夏季現地巡回（8/28）



「青天の霹靂」適期刈取講習会（9/5）

2 スマート農業を活用した大規模稲作省力・低コスト技術の普及 ～大規模経営体の育成に向けたスマート農業の推進～

【概要】

- ・ 労働力不足の中で水田農業の担い手が規模拡大に対応できるよう、スマート農業技術の導入による省力・低コスト化の実証・普及に取り組んだ。

【背景・課題】

- ・ 稲作経営の担い手は、今後、更なる規模拡大が見込まれ、労働力不足への対応や生産コストの低減が課題となっている。
- ・ 整備が進んだ大区画ほ場や高精度の位置情報を得られるRTK-GNSS基地局を利用し、スマート農業一貫作業体系の検証やスマート農業機械の導入による省力・低コスト技術を普及する必要がある。

【普及指導活動の内容】

- ・ 管内の関係機関、生産者で構成する西北型水田農業推進協議会において、スマート農業の導入戦略づくりをリードした。
- ・ 大規模経営体のスマート農業一貫作業体系の実践データ収集と寒冷地における稲作省力・安定多収技術の実証に取り組んだ。
- ・ ロボットトラクタの汎用性や効果的な利用を周知するため、自動操舵による大豆のは種及び中耕の作業性の実証と実演会を開催した。
- ・ 先進事例として、新潟県の農業データを活用した営農体系の取組について調査を実施した。

【成果】

- ・ 「西北地域の水田農業における『スマート農業』と『高収益作物』導入戦略」を策定し、今後の取組方向や推進体制が明確になった。
- ・ 大規模実践モデルにおいて、省力・低コスト技術の組合せにより作業時間短縮と作業人員削減が可能なことを明らかにした。
- ・ 自動操舵において通信障害が発生する新たな課題を確認し、作業精度が落ちた場合の対応方法を実証することができた。
- ・ 実演会・研修会の参加者は延べ127名で、自動化農機の効果的な利用方法(RTK基地局の利用など)について理解が深まった。

【対象者】

- ・ (株)十三湖ファーム
- ・ 津軽米づくりネットワーク(45名)
- ・ 五所川原広域水田フル活用推進協議会(28名)



ロボットトラクタによる大豆は種実演会(6/5)



自動操舵による大豆中耕作業の実証(7/5)



スマート農業研修会(1/26)

3 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及 ～省力化技術の実証による取組みの拡大～

【概要】

- 水稲単一経営が多く、米価下落の影響を大きく受ける津軽北部地域の農業者を対象に、ブロッコリーやとうもろこしの普及展示ほを活用し省力化技術の実証やほ場整備組合との情報交換会の開催等により、複合経営の普及拡大に取り組んだ。

【背景・課題】

- 津軽北部地域では、水稲栽培の依存度が高く、水田へ野菜を導入する際の作業時間や収益性に不安があることにより、複合経営の取組みが少ない。このため「水稲＋高収益作物」の普及展示ほを設置し、省力化技術の実証を行うとともに、作業時間や収益性、実践事例の周知など普及拡大に向けた支援を行う必要がある。

【普及指導活動の内容】

- 「西北型水田農業推進協議会」で野菜導入戦略目標達成のためのロードマップを示し、段階的に導入や定着を促すこととした。
- 普及展示ほ（「水稲＋ブロッコリー」、「水稲＋とうもろこし」）で、現地検討会を開催（6/16、25名）し、作付体系の検討を行った。
- 普及展示ほで実演会（8/18、81名）を開催し、ドローンでの薬剤散布や、自動操舵付きトラクターとアップカットロータリーによる等間隔なうね立て作業で省力化や安定生産を検討した。
- 令和5年度からほ場整備工事が始まった中泊町の3つのほ場整備組合の代表農業者や関係機関等と、次年度以降の作付計画や労力確保などについて情報交換を行い、体制づくりを検討した。
- 野菜導入セミナーを開催し（2/6、104名）、普及展示ほの実証試験結果や他県の優良事例、露地野菜のスマート農業の現状報告等を紹介することで、水田への野菜導入を働きかけた。

【成果】

- 水稲への野菜導入に向けた意識啓発により、中泊町の野菜導入経営体数が11戸から14戸に増加（ブロッコリー、にんにくを導入）した。

【対象名】

- 中泊町の中小規模稲作経営体（101戸）、新規就農者



とうもろこし畑でのドローン薬剤散布実演（8/18）



高収益野菜導入に係る打合せ（11/1）



水田への野菜セミナー（2/6）

4 水稲育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大 ～基本技術の習得による高収益作物の導入促進～

【概要】

- 水稲と高収益作物の複合経営の確立を目指している中泊町において、水稲育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」栽培の拡大に向け、生産者間や関係機関の連携強化と地域の先進事例の成果を活かした技術支援に取り組んだ。

【背景・課題】

- 西北地域では、水稲と高収益作物の組合せによる安定した複合経営の確立を目指し、育苗ハウスを活用したシャインマスカットの導入が進んでいる。
- 対象の中泊町では、稲作経営が主体で、ぶどうの栽培経験のある生産者が少なく、栽培知識が不足しており、市場等、果樹の関係機関との連携も弱い。
- このため、各関係機関の連携強化と情報の共有化、ハウス栽培での基本技術の習得に向けた支援が必要であった。

【普及指導活動の内容】

- ハウスシャインマスカット栽培の拡大に向け、講習会の会場見直しや開催時期の見直しを行うことで、苗木～若木期の管理についてイメージしやすくなり、ハウス栽培の基本技術の理解度が向上した。
- 花穂整形、無核処理、摘粒、剪定など主要作業に合わせた栽培講習会を開催し、管理の目的や作業適期、作業内容について実演しながら指導を行った。
- 生育のバラツキが大きい年だったことから、無核処理や摘粒作業の適期の周知、講習会だけでは説明しにくい苗木の管理や樹の仕立て方など巡回による栽培技術の指導を行った。
- 適期栽培管理を普及するための展示ほを、町内で高品質な果房を生産している生産者のほ場1か所に設置した。

【成果】

- 役場や産地市場などの関係機関と連携して支援を行ったことで、協議会や講習会において生産者間の情報交換や連携強化が進むとともに、講習会や個別指導を通して、適期栽培管理の必要性について理解が進み、新規作付者にもハウス栽培の基本技術が定着し始めた。

【対象名】

中泊町シャインマスカット生産者協議会（27名）



栽培講習会（12/19）



展示ほ内のシャインマスカット（9/22）



育苗ハウス内のシャインマスカット

5 地域経営体の育成確保と共助・共存の農山漁村づくり

～継続的な地域活動支援～

【概要】

各市町の担い手育成総合支援協議会等と連携して地域経営体の育成及びレベルアップに取り組むとともに、五所川原市三好地区の共助・共存の農山漁村づくりに向けて結成された「三好をあげあう会」の支援に取り組んだ。

【背景・課題】

- 管内の地域経営体の取り組みの高度化を図っていく必要がある。
- 農村地域の少子高齢化等の課題解決にむけ、地域運営組織「三好をあげあう会」の活動支援が必要である。

【普及指導活動の内容】

- 西北管内担い手育成総合支援協議会等と連携し、地域経営体の育成、共助・共存に向けた集落の意識醸成、地域資源の発掘・活用等に対する取組を支援した。
- 五所川原市の地域経営体（有）青い森物産が地元食材料理レシピを開発し、お披露目会やSNS等での発信を支援した。
- 金木観光物産館「産直メロス」出荷者友の会が、商品開発を行いお披露目会を開くのを支援した。
- 地域運営組織「三好をあげあう会」が「野菜づくり体験」等のイベントを開催する際、会の自立を促すよう技術的・事務的な支援をした。

【成果】

- 1経営体がレベル3にレベルアップした。また、管内の地域経営体数は125経営体となり地域経営の取組が強化された。
- 地域経営体（有限会社 青い森物産）の取組を受け、情報の発信や三好地区のコミュニティに進展が見られた。また、産直メロス出荷者友の会は、産直メロスならではの商品を開発し、2月にお披露目会を開き、友の会の活動を内外に示すことができた。
- 「三好をあげあう会」が主体となって農業研修、獅子舞交流会を企画し、住民らは三好の魅力を再認識し、さらにSNS等を通じて発信することができた。

【対象者】

管内の地域経営体（125経営体）
及び地域経営体候補（53経営体）
共助・共存の農山漁村づくりモデル地区
（五所川原市三好地区住民）



野菜づくり体験（7/16）



料理レシピ発表（11/19）



獅子舞交流会（12/3）

6 地域を支える農山漁村起業の推進

～女性起業家の経営発展と地域課題解決活動への支援～

【概要】

女性起業家の経営力向上とともに、地域活動をリードする女性起業家の育成と地域貢献活動の確立に向けた支援に取り組んだ。

【背景・課題】

- ・ 西北管内の農山漁村女性による起業活動は、産直の魅力向上、情報発信などで地域全体の活性化につながるほか、女性の社会参画、地域貢献にも寄与している。
- ・ 各組織では高齢化対策、魅力ある商品や体験メニューづくり、起業初期の収益確保など、段階に応じた支援が必要となっている。
- ・ 人口減少が進む中で、地域において様々な共助の仕組みづくりが急務となっていることから、高齢者の交流の場づくりや「食」を活かした地域貢献活動を展開できる起業家の育成が必要である。

【普及指導活動の内容】

- ・ 女性起業活動の実態調査を行い、個々の課題や今後の支援策を整理した。
- ・ 漬物加工をテーマに、先進事例と営業許可制度等を学ぶ講座を開催し、女性起業家の経営力向上を図った。また、新たな取組開始に向けて、試験研究機関と連携した技術指導や補助事業の活用、事例紹介などの個別指導を行った。
- ・ 郷土料理を活かした地域活動に関心のある女性起業家や若手農業者が、料理技術を学ぶ研修会を開催したほか、地域課題の解決に取り組もうとする女性起業家に対して、住民の交流促進などの地域貢献活動の運営支援を行った。

【成果】

- ・ 女性起業家への支援により、3件の女性起業家が、それぞれ新商品の開発、直売活動の開始など新たな取組を開始した。
- ・ また、地域人材を活用した多世代交流イベントや共同調理とスポーツによる住民交流イベントを行うなど地域貢献活動に2件の女性起業家が取り組んだ。

【対象者】

西北管内農山漁村女性起業家(67経営体)
＜加工販売活動、産直活動、グリーン・ツーリズム実践者等＞、
起業活動に関心のある女性農業者



郷土料理を学ぶ女性起業家 (9/12)



共同調理で住民が交流 (若山地域 10/20)



漬物加工をテーマに開催した講座 (12/14)